

岩手県地域医療構想（胆江圏域）の 取組状況及び災害医療対策について

岩手県奥州保健所 企画管理課

1

岩手県地域医療構想（胆江圏域）の取組状況①

岩手県地域医療構想とは

将来における病床機能の分化と連携及び在宅医療を推進するため、県が平成28年3月に医療計画の一部として策定したもの

【目指す将来像】

団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けて、患者のニーズに応じて高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅医療・介護まで、一連の医療サービスが切れ目なく、また、過不足なく提供される医療体制の構築

協議の場

「胆江圏域地域医療連携会議」（24委員。医療・介護・福祉・行政関係機関・団体）において、構想の実現を目指し協議を行う。

※ 構想は、医療機関や市町等が協議し、医療機関が自主的に実現を目指すもの。

昨年度の取組

【胆江圏域地域医療連携会議の開催】

- 開催日
平成30年9月13日（木）
- 主な協議事項
 - ・ 病床機能報告について
 - ・ 地域医療構想（胆江圏域）の進め方について

2

岩手県地域医療構想(胆江圏域)の取組状況②

現状と課題

- 急性期及び慢性期の病床数が過剰であり、回復期の病床数が不足していること。

(岩手県地域医療構想及びH29病床機能報告をもとに作成)

2次保健医療圏	病床機能区分	2017 病床機能報告 A	2025 必要病床数 B	差引(A-B)	備考
胆江圏域	高度急性期	0	84	▲84	(全県で対応)
	急性期	773	357	416	過剰となる機能
	回復期	127	312	▲185	不足する機能
	慢性期	546	445	101	過剰となる機能
	合計	1,446	1,198	248	

- 連携会議において、地域医療構想の実現に向けた協議が進んでいないこと。
 - ・ 胆江圏域における将来のあるべき姿を協議する上で、地域医療計画の策定を求める意見が出されたこと。
- ⇒ 現在、奥州市と金ヶ崎町が医療機関、介護事業所等へのアンケートを実施し、計画策定に向けて作業中であること。

3

岩手県地域医療構想(胆江圏域)の取組状況③

今年度の取組

【胆江圏域地域医療連携会議の開催】

- 開催時期
11月頃
- 主な協議事項(予定)
 - ・ 各医療機関の2025年における病床数に対する考え方について
 - ・ 具体的対応方針の取りまとめについて

4

災害医療体制の整備

災害医療推進体制

- 名称 胆江地域災害医療対策連絡会議
- 構成団体 医師会、災害拠点病院、輪番病院等医療機関、消防・警察、ライフライン事業者、市町
- 取組 胆江圏域災害医療対応マニュアルに基づく連携

昨年度の取組

【災害医療実地訓練】

- 日時 平成30年11月30日(金)13:00～17:00
- 参加機関
 - ・ 行政機関等 消防本部、奥州市、金ヶ崎町、奥州医師会、奥州保健所など
 - ・ 医療機関 県立胆沢病院、県立江刺病院、総合水沢病院、奥州病院、美希病院
- 災害想定 台風による水害
- 訓練内容
 - ・ 奥州保健所の初動体制の確立
 - ・ 浸水した江刺病院から市内4病院に入院患者を移送するための情報収集、病院間の連携体制の構築

5

災害医療体制の整備

今年度の取組

【災害医療実地訓練】

- 日時 令和元年10月11日(金)13:00～16:00
- 参加機関
昨年度の行政機関等及び医療機関に加え、地域団体や専門学校にも参加を依頼していくこととしている。
- 災害想定
地震による病院の被災等
- 訓練内容(予定)
入院患者の移送等のための関係機関との調整及び情報連絡体制の構築

6